

# 住之江区・企業・NPO・学校・地域交流会とは?

お互いの「強み」と「強み」を組み合わせれば、今までできなかったことができる。例えば、『家に車はあるけど、免許のない人』と『免許はあるが、車のない人』が出会い意気投合すれば、ドライブに行ける。

住之江区では、そんな『つながりによるまちづくり』を応援しています。

『業種を超えた出会いの場づくり』『コーディネート(つなぎ)役』『情報収集と発信』が応援ポイント!



住之江区には、「地域社会をもっと盛りあげたい」という熱いハートを持った地域、企業、NPO、学校、病院、福祉施設・機関等の関係者がたくさんいます。そこで「企業・NPO・学校・地域交流会」を平成25年度から年3回程度開催しています。キーワードは、「地域貢献」。年々、新たな仲間が加わって、それぞれの立場で交流会に意義を見出していただき、今では、毎回100名を超える会に成長しています。

この交流会からは、今まで約40ものつながりによる「取組み」が行われていますが、今回はその中から3つご紹介します。

■行政やまちづくりセンターに望む役割について (H25企業・事業所等へのアンケートから)

内容	件数
地域住民と企業をつなぐコーディネート機能の充実	27
地域住民と企業の協働に関する情報提供	25
活動支援等の相談機能や連絡体制の充実	17
住民や地域団体、NPO、社協等との交流協働の場の設定	15
地域住民と企業の協働に関するルールづくり	14
特になし	5
その他	3
関与すべきでない	0

## 企業・NPO・学校・地域交流会をきっかけに生まれた、3つの取組み事例

CASE.1  
企業

「高齢者の買いものを手助けしたい地域」  
×  
「物流で培ったネットワーク」

### 特選青空市場「ふれあいマルシェ」

つながって仲間に ▶ さざんか平林協議会×NPO法人ふれコミ  
いっしょに何を? ▶ 毎月第1・3木曜日10:00~15:00、平林福祉会館において開催されているふれあい喫茶「ひら茶」に合わせて、産直野菜を販売しています。

物流を専門とする会社が「企業として新しい付加価値を」と始めた、付き合いのある農家からの産直野菜・特産物等の販売。そのうち「荷物が重くて帰るのがつらい」「話をする人がいないので寂しい」などのお客様の声を聞くようになりました。そこで、お客様に対してもっと何かお手伝いできるのではとの強い思いから、「NPO 法人ふれコミ」を立ちあげ、地域の集会所等で産直野菜や米を販売するようになりました。

「企業・NPO・学校・地域交流会」で出会った平林地域は、ボランティア活動が盛んで、特に女性陣が明るく元気。コミュニティづくりのためのふれあい喫茶「ひら茶」を毎週開催し、そのおもてなしの心で、毎回100人前後の賑わいを見せていることに感銘を受けたそう。



交通手段を持たない高齢者層を中心にスーパーなどが遠いという課題を抱えた地域と意気投合し、準備を重ね、平成27年4月から「ふれあいマルシェ」をスタート。

今では、地域は自前で会館までの送迎バスを運行、ふれコミはマルシェで購入した商品を後日自宅へ届けるサービスを開始するなど、ますます充実しています。



CASE.2  
学校

「若者をまきこみたい地域」  
×  
「看護学生の学びの場」

### 看護学生がふれあい喫茶・高齢者食事サービスで交流体験

つながって仲間に ▶ 南大阪看護専門学校×大阪市住之江区住吉川地域活動協議会・さざんか加賀屋協議会・さざんか加賀屋東協議会・さざんか平林協議会・さざんか南港緑協議会・さざんか清江協議会  
いっしょに何を? ▶ ふれあい喫茶等で看護学生がボランティア。高齢者のお話し相手になるなど交流を深めています。

南大阪看護専門学校では、在宅看護論実習で加賀屋地域の緑木ふれあい喫茶に参加し、普段、病院内でしか高齢者と接する機会がない看護学生のため、高齢者と交流できる機会を設けていました。さらに幅広く高齢者と交流する場を求めてまちづくりセンターに相談したことがきっかけで、平成27年から老年看護学概論講義の一環として、5地域のふれあい喫茶や高齢者食事サービスに参加し、交流の輪を広げています。力強く生活を楽しんでいる高齢者の姿を見て、病院で療養されている方々の療養前の様子を知ることができ、入院されている方々の援助に繋げることができています。



各地域のスタッフも未来の看護師さんたちのため喜んで実習を受け入れ、参加している高齢者の皆さんも若い学生さんとの交流により、楽しい時間を過ごしておられます。「企業・NPO・学校・地域交流会」への参加をきっかけに、運動会やハロウィンなどの地域行事をボランティアとして応援するなど学生の学びの場が広がっています。



CASE.3  
大学

「住み続けたいまちにしたい地域」  
×  
「大学の学術ノウハウ」

### 地域住民へのニーズアンケート

つながって仲間に ▶ さざんか南港緑協議会×森ノ宮医療大学  
いっしょに何を? ▶ 「高齢者の住みやすいまち」をめざし、地域の取組みに反映させるための住民ニーズアンケートを作成・実施  
10月1日(日)~15日(日)

南港緑地域は高齢化率の高いまち。だからこそ、高齢者が少しでも生活しやすいように、みんなで助け合い、いくつになっても明るく活き活きと暮らしていけるまちにしたいとの思いを強く持っていました。

平成28年12月に南港で開催された「企業・NPO・学校・地域交流会」では、「高齢者の住みやすいまち」をテーマにそんな思いを込めてプレゼンテーション。続くワークショップで企業等と意見交換する中、「まずは高齢者の実際のニーズを把握しなければ効果的な支援を行うことはできない」と地域住民にアンケートを実施することになりました。

同じく交流会に参加し、地域の熱い思いに感銘を受けた森ノ宮医療大学が、学術ノウハウを活かしてアンケート作成にかかる指導相談役を引き受け、実現に向かってスタート。

その後、ささしま地域包括支援センターや住之江区社会福祉協議会も参画し、約半年間をかけて話し合い、皆の想いをA3用紙1枚に凝縮したアンケートが完成。平成29年10月に配付することができました。南港緑地域の「高齢者になっても住みやすいまち」づくりは、地域、大学、企業が一丸となって前進しています。

